

令和 8 年度小松市立国府小学校 学校評価 2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・ 8 月提出）	取組の成果と課題（年度末・ 3 月提出）
生徒指導	児童の主体性を育み、安心して楽しく過ごせる学校・学級づくりの推進	・「やかたシート」を活用して学級目標の振り返りや改善を行い、代表議会でも取組を共有することで、主体的なクラスづくりにつなげることができた。代表議会での協議内容を全校に共有していきたい。 ・2回のたてわり活動ややかたミーティングを通して異学年の交流を深め、安心して過ごせるつながりをつくることができた。 ・企画運営委員会を中心に、スポフェスに向けた目標づくりや児童会種目を実施し、学校をよりよくしようとする意欲を高めることができた。	
	・「やかたシート」で学級の目標と振り返りを共有し、一人ひとりが主体的にクラスづくりに参加できる環境を整える。 ・たてわり活動を通して、上級生としての自覚や主体性を高め、学年を越えて安心して過ごせるつながりを作る。 ・企画運営委員会を中心に、全校のつながりを作る活動の場を設け、みんなの手で学校生活を楽しく、より良くしていこうとする意欲を高める。		
特別支援教育	＜支援を必要とする児童に対する、組織的な支援体制の構築＞ ・各学期1回（6月、10月、2月）に特別支援教育校内支援委員会を行い、児童の実態把握と指導支援の検討を行うことで、組織的な支援の充実を図る。 ・対象児童の担任は、1学期前半に保護者懇談を行い「個別的教育支援計画」を作成する。また、2学期末以降に次年度の目標について保護者と協議し、方向性を共有した上で次年度へ確実に申し送る。 ・外部機関とも連携を取り、専門的な視点を取り入れた支援を検討・実施する。	・6月に校内支援委員会を計画していたが、実情に合わせて見直し9月と12月に行うことにした。週1回の終礼における児童理解の共有や、職員会議を活用した児童理解の会を新たに設定・継続した。これにより、定期的かつスピーディーに児童の実態や指導上の課題を全職員で共有し、組織的な指導・支援体制につなげることができた。 ・個別的教育支援計画について保護者と懇談し、6月までに作成が完了した。 ・適宜、児童や保護者、担任の困り感に寄り添い、支援策の検討を行っている。	
道徳教育	＜発達段階に応じた道徳教育を推進する＞	・年度初めに各学年でカリキュラムマップ、道徳年間教育計画を確認した。月末に取り組んだ教材を記録していくことで、確実に計画に沿って実施することができた。 ・授業公開とファミリートークは2学期に実施する予定。	
	・カリキュラムマップをもとに、発達段階を考慮して、重点目標と各教科、特別活動を関連させて道徳教育を行う。 ・授業公開や道徳ファミリートークの機会を設定し、家庭・地域との連携を図る。		
読書教育	＜読書の質的な向上を図る＞	・1学期は工事の関係で図書貸し出しや図書委員会の活動ができなかった。しかし、ミニ図書館を設定し、利用を促したことで、休み時間に読書に親しんだり授業で活用したりする姿が見られた。 ・各教室前廊下にブックトラックを置き、「本のとびら」や「この本読もう」の本を入れ、読むことを勧めたことで、手に取る児童が増えた。	
	・図書担当と図書館司書が連携を図り、多読者表彰（年度末）、図書委員主催の取り組みを行い、読書の質的な向上を図る。 ・「本のとびら」「この本読もう」を活用し、読書の質を上げる。		
保健健康教育	＜心身の健康や運動に関心をもち、健康への意識向上を図る＞ ・保健指導や保健委員会の活動を通して、規則正しい生活習慣の実践と健康な体づくりに取り組む。 ・学校保健委員会を通して育友会と連携し、親子が心身の健康についてともに学ぶ機会を作る。 ・「スローイング・レボリューション ～投力アップ・スマイルプロジェクト～」として、体育科や特別活動などの時間に、投げる運動や投げる運動遊びの機会・場を作り、体力の向上を図る。	・毎日の健康観察と毎週の清潔チェックを、Formsを活用した学習用端末で実施した。心身の健康問題の早期発見・早期対応を図った。特に、相談のある児童の発見に努め、声掛けなどの対応ができた。 ・学校保健委員会に向けて、「食」についてのアンケートを作成し、4～6年児童と保護者に向けて実施した。アンケートの回答結果を今後考察し、学校保健委員会で発表する。 ・体育委員会の企画を通して、楽しみながら投げる運動の機会を作ることができた。	
情報教育	＜ICTの効果的な活用を図る＞	・小松市の生成AI活用ガイドラインに基づき、生成AIを授業や校務で使用する際の注意点や活用方法について共有する研修を行った。しかし、それ以外の研修の時間をとることが難しかったため、今後は集まる形の研修もしつつ、教師がいつでも閲覧できる形式で実践事例を蓄積できるようにしていきたい。 ・児童の情報活用能力の向上をめざし、「タイピング検定」を実施した。KPIの指標である、児童の意欲向上につなげるため、1分当たりの入力文字数によるランク分けを行った。 ・7月に舟見学級として講演会を行い「ネットとの上手な付き合い方」を考えることができた。2学期からは情報モラル教育を意識的に行えるよう期間を設けて取り組んでいきたい。	
	・教師は「GIGA校内研修年間計画」に基づき、授業のねらいに応じてICT活用を効果的にデザインできるよう、授業実践交流や校内研修を継続し、専門性を高める。また、個別最適な学びを促すICT活用を授業に取り入れる。 ・児童が学習目標達成のため、ICTを活用して主体的に学び進めたり、学習課題に応じたICT活用場面を自分で判断する等、自己調整的な学びを充実したりできるようにする。 ・情報モラルや倫理に関する教育を充実させ、情報社会において責任を持って行動する態度を育てる		
家庭・地域との連携	＜家庭・地域と連携した教育活動の推進＞	・クラブ活動では、地域の方々を講師として招聘し、技能や知識を得ることができている。児童は、意欲を持って取り組み、充実したクラブ活動を行うことができている。 ・今年度はものづくりマイスターを招き、5年生は和菓子作り、6年生ははんこ作りに取り組み、地域の文化や伝統に触れることができている。 ・家庭学習プラス週間を設定し、全校で取り組むことができた。自学ノートに意欲的に取り組む児童も増えてきている。 ・保護者アンケートの「家庭や地域と連携しながら教育活動を行っている」の項目では、肯定的な回答が96.0%であった。	
	・家庭や地域の力を生かした活動を教育課程に位置付ける。 ・各教育活動の目的を明確にし、地域の自然や文化について学ぶ機会を設ける。 ・家庭学習の取組について、家庭と共通理解を図りながら取り組む。		

学校関係者評価	・児童と教員で10P以上差が見られる項目もあった。めざす姿について児童と共有し取り組んでいけるとよい。 ・自学ノートの取組はよいが、目的や方法などを学年に応じて指導しながら取り組めるとよい。 ・1学期は空調工事のために図書室が利用できなかったのは残念だった。2学期以降は、ぜひ本に親しむ機会を増やしてほしい。 ・SNS等を含むスマホとの付き合い方について、健康被害も懸念されるため、今後も上手な使い方を学んでいく必要がある。子どもたちだけでなく、保護者や地域で共有できるとよい。 ・登校渋りや不登校傾向の児童等の対応等で、地域でできることがあれば教えてほしい。
---------	--